

町田市公共施設再編計画の策定にあたって

これからの公共施設のあり方について

ご意見を募集します！

募集期間 2017 年 6 月 15 日(木)～7 月 17 日(月)

記入内容 計画に対するご意見・性別・世代・お住まいの地区

提出様式 様式は任意です

提出方法

- ・窓口への提出 企画政策課（市庁舎 4 階）、各市民センター・連絡所
各コミュニティセンター、各市立図書館
町田市民文学館、生涯学習センター、市民フォーラム
- ・FAX 050-3085-3082
- ・E メール mcity2980@city.machida.tokyo.jp



町田市は、これからの時代にふさわしい新しい公共施設・公共空間づくりをするために、公共施設再編計画を策定いたします。そこで、市民の皆さまのご意見を募集いたします。

※公共施設とは：市役所が保有している施設及び借りあげて行政サービスを行っている施設のことです。

* 公共施設再編計画とは *

高度経済成長期に整備した大量の公共施設等の老朽化や維持更新費の増大などが全国的に課題になっています。財政状況が一層深刻になっていくと予測される中で、町田市においても、かつてのように多くの施設を一斉に更新することは困難な状況です。そこで、2015年度に「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」を策定いたしました。再編計画はこの基本計画に基づき、施設機能分類ごとの実態・課題を踏まえ、今後の方向性や取り組みを定める計画です。

2017 年度中に 2018-2026 年度の取り組みについて、より具体的な内容について計画の策定を行う予定です。今回は検討に先立ち、その前提となる取り組みの方針・考え方（4 ページ～12 ページ）についてご意見を募集いたします。

仮

10年・20年後の町田市ではあちこちで公共施設が使えなくなっているかもしれません…。



<イメージ画像等を作成予定>
全てを直せば財政を圧迫
かといって何もしないと危険な施設に

なぜならば、

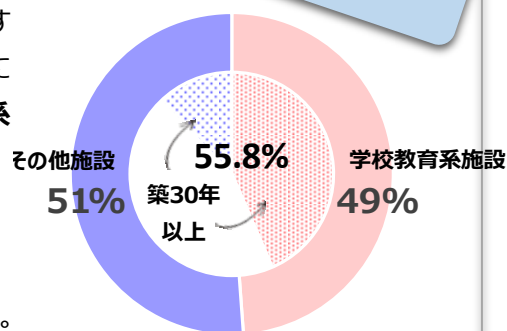
1. 町田市の公共施設の状況

(1) 公共施設

町田市は高度経済成長期の急激な人口の増加や社会環境の変化に対応するため、1960年代後半から80年代前半にかけて学校教育系施設を中心に多くの公共施設を整備しました。それから半世紀近くがたった今、**学校教育系施設**については、その9割近くが築30年以上と老朽化が進んでいます。

■建築年別延床面積■

- 公共施設のうち、約半分を学校教育系施設が占めています。
- 2015年度現在、**築30年以上の施設が半数を超えています。**



今後、これらの老朽化した建物にたいして**多額の維持更新費用が必要**となってきます。

しかし、

町田市においても人口減少及び高齢化が進むことによる**社会保障費の増大及び税収の減少が予測**されています。

2. 町田市の人口と財政状況の見通し

(1) 人口

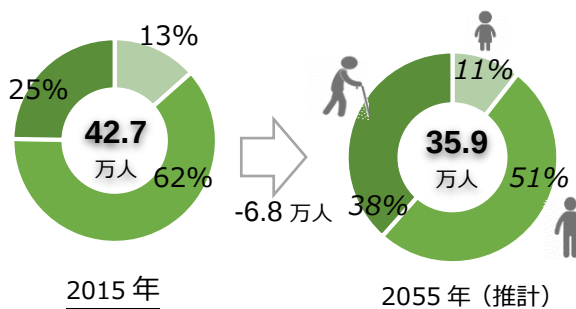
町田市の総人口はこれまで増加を続けてきましたが、推計によると今後は**減少**に転じます。

また、人口構成比は、市税収入の中心となる**生産年齢人口**（15歳から64歳）の人口割合が低くなり、**高齢者**（65歳以上）の割合が高まっています。

(2) 財政

町田市の歳出総額は概ね増加傾向にあり、歳入から歳出を差し引いた**収支不足額**は、2017年度から2021年度までの**年平均で15億4360万円**になることが予測されています。

年少人口 生産年齢人口 老年人口



※このように、人口減少及び高齢化が進むことにより、社会保障費の増大及び税収の減少が予測されます。

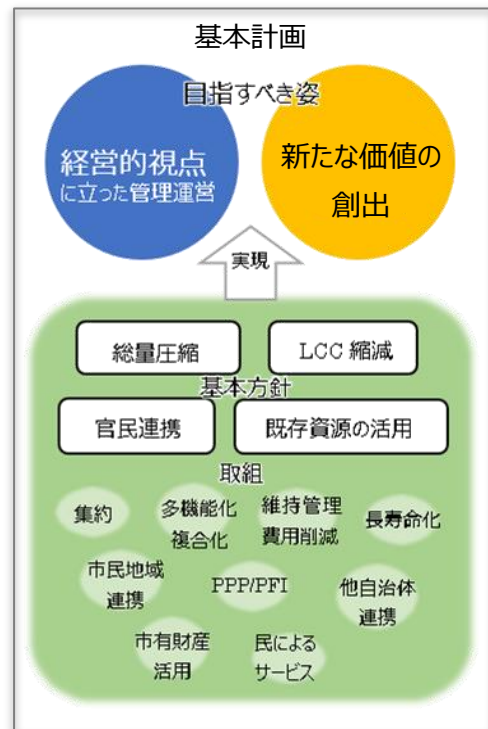
このような状況においても、必要な施設を適正に維持管理し、**時代のニーズに対応した公共サービスを維持向上**させていくためには、将来を見据えた総合的かつ計画的な公共施設マネジメントの取り組みが必要です。

そこで、町田市では2016年3月に「**町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）**」を策定しました。

3.「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」について

町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）は、町田市が保有する公共施設等の現在の状況を客観的に把握・分析することで現状の課題等を明確にするとともに、**公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための基本的な方針を示す**ことを目的に策定しました。

基本計画では、2055 年までの「**経営的視点に立った管理運営**」と「**新たな価値の創出**」の2つを目指すべき姿と定め、目指すべき姿を実現するための**4つの基本方針**及び**9つの取組**を示しました。



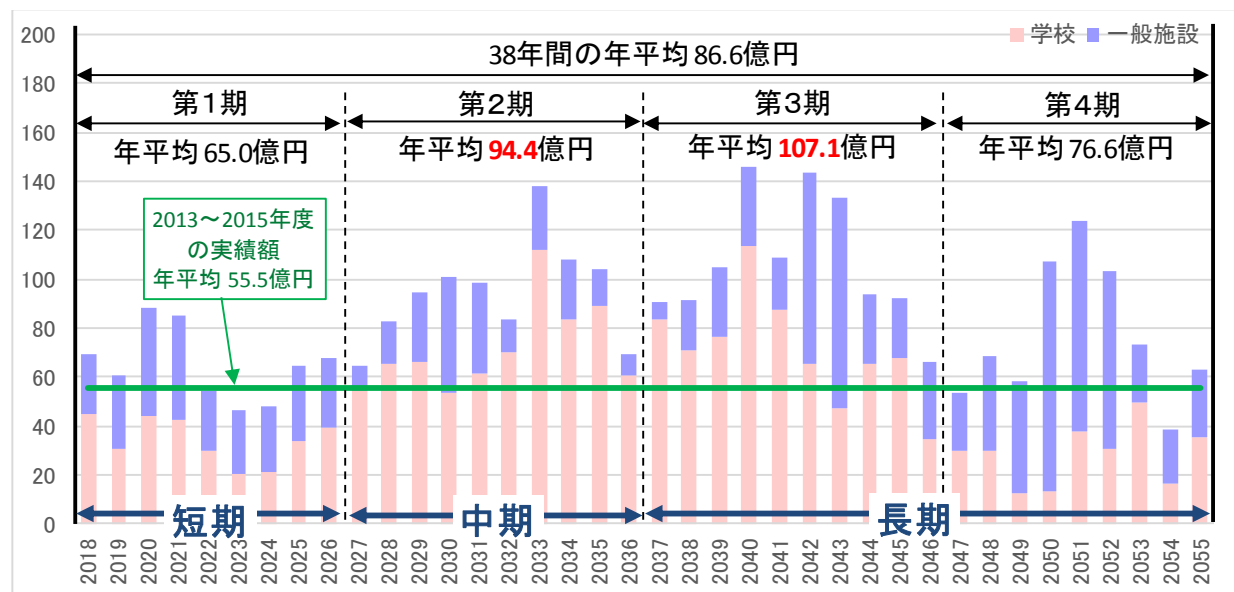
4.これから必要となる公共施設の更新費用は？

基本計画の対象期間は 2015 年～2055 年の 40 年間です。

基本計画に沿って公共施設のマネジメントを進めていくにあたって、何から取りかかればいいのでしょうか。まず、今後想定される公共施設の更新費用（建替えや大規模改修に要する費用）を算出しました。

今後、今ある公共施設を全て維持していくことは困難

下記の棒グラフの通り、**今後かかる更新費用は施設にかかった過去の実績費用をはるかに上回ることが分かります**。時期別に見てみると、第2期と第3期にかけては特に多くの更新費用がかかり、金額上、学校分の更新すら賄いきれていない状況であることがわかります。



これから更新時期を迎える公共施設を全て建て替えることはできません。

今ある資源を活かしつつ、今から計画的に将来に向けた取り組みを着実に進めていく必要があります。

5.計画的に公共施設マネジメントを進めていくために～「町田市公共施設再編計画」

(1) 目的

町田市公共施設等総合管理計画に基づき、総合的かつ計画的な管理を推進し効果的・効率的な施設の再編を実行していくための計画です。

(2) 計画期間

2018年度から2055年度の38年間とします。

さらにこの期間を短期・中期・長期と大きく3つに整理し、短期について取り組みを詳細化します。

これからの公共施設・公共空間のあり方を考えよう

～ひろがる！つながる！未来の可能性～

老朽化が進む大量の公共施設、少子化や高齢化の進展や、人口減少に伴う財源不足など、確かに町田市も他の自治体と同様に避けては通れない、多くの課題を抱えています。

その一方で、IT化が進み今までになかったことができるようになったり、社会の自由度があがりそれぞれの価値にあった選択肢が増えていたり、**将来の人々の暮らしやまちの姿はたくさんの可能性に満ちている**のではないのでしょうか。

町田市では、この公共施設の再編という、今までにない**長期的かつ大きな取り組み**を通じて
将来にわたって そこで暮らしている

誰もが地域社会の中で誇りを持ち
豊かに暮らし続けられるまちを
みんなと連携して作りたい

と考えています。



今ある資源を活かし
そのための「**場**」と「**しくみ**」をつくる
計画＝「**公共施設再編再計画**」

確かに、今ある公共施設を全て今までと同じかたちで残していくことはできません。

であれば、みんなで「今まで」ではなく「これから」に目を向け、将来の町田を担う世代に きらめく町田のまちを引き継ぐためにも、未来につながる公共施設・公共空間のより良いかたちをみんなで創っていきましょう。

これからの公共施設・空間において
目指すもの
〔求められる要素〕

多様性・柔軟性・身近・魅力
みんな・共感・わくわくいきいき
つながり・気軽さ・誰もが
オープン（開放的）・デザイン
エンターテイメント・食 など

↑ 市民ワークショップからもたくさんのヒント
をいただきました！

多様な活動を実現するしくみ



みんなが集まりたくなる
魅力的な場

新たな価値・サービスを創
出する豊かな場の創造

柔らかな絆でつながる
持続可能なコミュニティ
の創造



6.再編にあたっての考え方

町田市が目指したい公共施設再編とは、
単に施設を減らしコストダウンを図るのではなく、

「公共施設・公共空間のより良いかたち」

を実現させていくことです。

そのためには、
現在あるかたちにとらわれず

経営視点に立ち、新たな価値を創出しながら、
将来につながるかたちへリデザインする
ことが必要です。

経営的視

新たな価値
の
創出

将来を見据えた長期的な視点

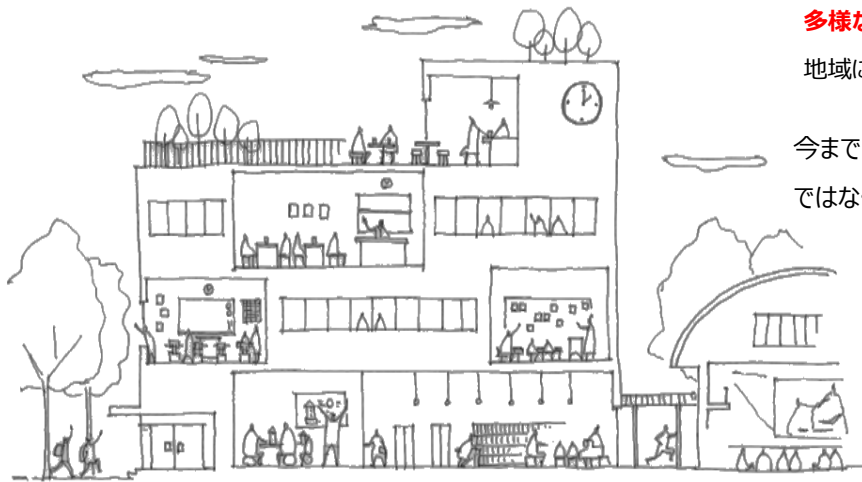
前例踏襲ではない発展的な考えや取組

将来を見据え、
次の世代にも引き継げる
**公共施設・公共空間の
より良いかたち**
を実現する

公共施設・公共空間のより良いかたち *Redesign*

「新たな価値のサービスを創出する豊かな場の創造」と「柔らかな絆でつながる持続可能なコミュニティの創造」を実現する公共施設・公共空間のより良いかたちをイメージしてみました。

ここでは、今までの施設の良さを引き継ぎながらも、多様な人々のアイデアや取り組みにより、新たな価値が付加された施設・空間を表現しています。このような場所では、たくさんの人々の交流や活動が生まれ、新たなサービスや地域の活力・魅力につながると考えています。



学校や市民センター等の

多様なサービスや活動の拠点としていく建物を **複合化** し

地域に**必要な機能を維持**しながら **建物総量を削減**。

今までのように 1 施設=1 機能、特定の利用者のための施設、ではなく、多様な人の多様な活動の拠点とする。

多用途・多目的・多世代

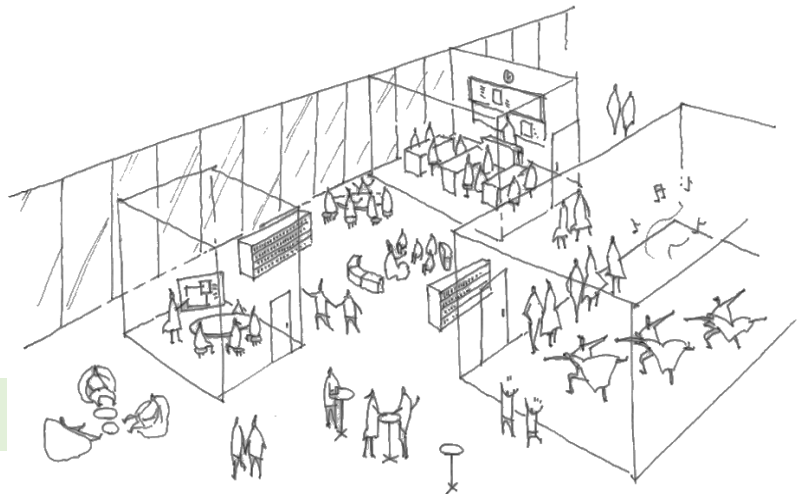
わたしたちの施設→**みんなの施設**

公共的・公益的サービスは官（市）だけが提供するのではなく、民も担う。

活動や交流が活発になる持続可能なコミュニティの場。

サービスに見合った**コスト**

サービスを受ける×**自分たち（民）も提供する**

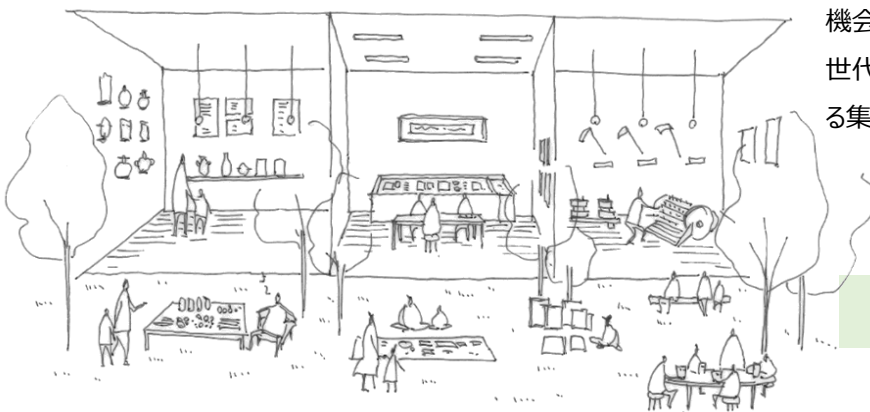


身近な場所でより多くの人々がサービスを受けられる機会を増やす。

世代や目的等にとらわれない緩やかな絆でつながる集いの場所。

誰にとっても**開放的**である

集まりたくなるような**温かさ**がある



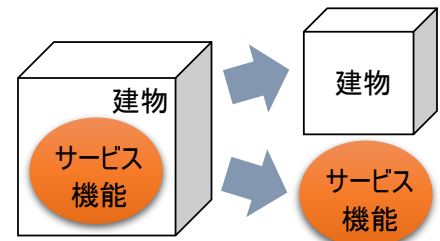
7.より良いかたちを実現するために

公共施設・公共空間のより良いかたちを実現していくための取り組みを検討していくうえでは、いくつかの検討のポイントがあります。

「建物」と「サービス・機能」は切り離して考える

必要な機能・サービスを維持しつつ、建物の総量を減らしていくためには、まず既存の施設を「建物」とその建物において提供されている「サービス・機能」を切り離して考える必要があります。

例えば、市民センターであれば、市民センターという「建物」と、行政窓口や集会施設といった建物の中で提供されている「サービス・機能」に分けて考えます。



どのような「建物」を維持すべきなのか考える

施設を「建物」として着目する際は、今後も継続して維持していく建物かそうでないかを検討していく必要があります。維持していくべき建物かどうか検討するポイントとしては、多様なサービスや活動の拠点とするためにふさわしい

①立地②建物の大きさや敷地面積があるかといった点などがあげられます。

また、限られた財源で、適切かつ効率的に建物の維持保全を行っていくために、予防保全の工事（機能回復・向上のための改修）は、原則として「維持する建物」のみに行っていきます。

検討のポイント

- 多様なサービスや活動の拠点とするためにふさわしい

①立地 ②建物の大きさや敷地面積があるもの。

例：学校、駅近の市民センターなど

- その他、廃止することができない機能を提供する施設であり、かつ既存施設の立地から機能を移転することが困難なもの。

例：下水道施設、ごみ処理施設など

「サービス・機能」についても見直しを図る

「サービス・機能」についても、社会状況等の変化なども十分に考慮し、時代に見合った行政が提供すべきサービスの量・質の適正化を図ることが重要です。機能・サービスを見直すにあたって、4つの視点から現在の「サービス・機能」の状況について着目します。

4つの視点

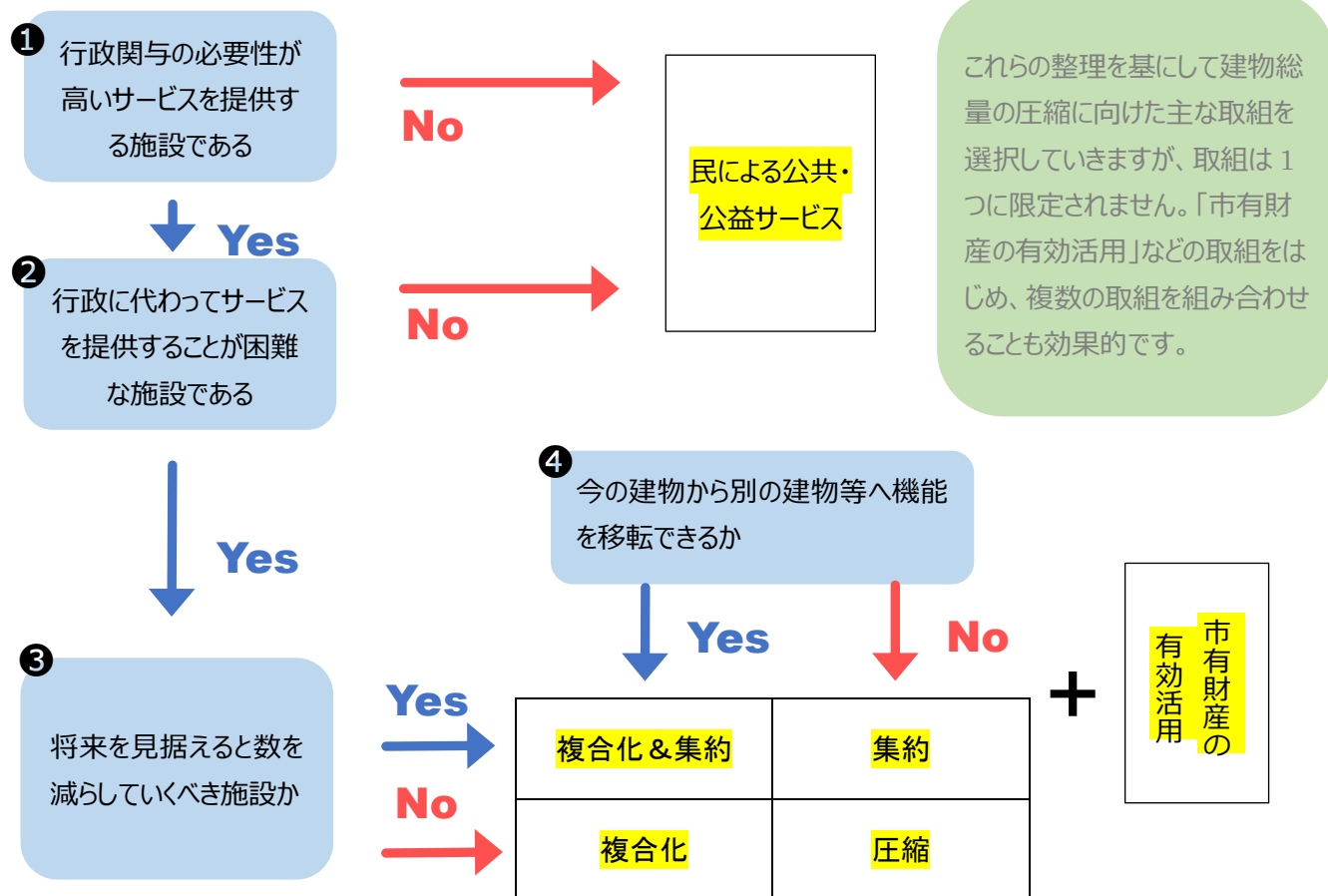
- **行政関与の必要性** （法律等による義務か、命や生活に直結するサービスか、など）
- **設置目的との整合性** （設置目的の意義が低下していないか、サービスや利用実態が見合っているか、など）
- **利用状況の妥当性** （稼働率や利用者数、利用頻度、受益者負担は妥当か、など）
- **機能や運営の代替性** （類似する機能が民間等で提供されていないか、民間運営の可能性はないか、など）

行政関与の必要性が高く、民間等での代替性の無いサービス・機能については、行政が今後も担うべきサービス・機能として、量や質の適正化を図ったうえで再編後も適切に維持していきます。一方で、行政関与の必要性が総じて低いものについては、サービス自体の廃止や実施主体の見直しが必要だと考えます。

「サービス・機能」を維持させながら「建物」を減らしていくには

公共施設・公共空間のより良いかたちを実現してうえで建物の総量は削減していかなければなりません。サービスや機能を維持しながら、これを実現していくためにはどのような取り組みを行えばいいのでしょうか。

取り組みは施設の性格によって使い分ける必要があります。以下の性質などから整理してみましょう。



実りある計画にしていくためには

将来を見据えたより良いかたちの公共施設・公共空間の実現は行政だけではできません。

計画がただの計画ではなく、着実に実行されるためには、市民の皆さんや民間事業者の方など、町田市の実現を見据えた発展的な視点を持ち行政と協力しながら自ら主体となって取り組む多くの方の理解と参画がとても重要となります。残念ながら施設は刻一刻と確実に老朽化していきます。将来の社会状況からは、今ある施設をすべて建替えるということが困難な状況ですが、公共施設・公共空間のさらなるより良いかたちを実現していくチャンスと捉え、今できることをみんなで考えて実行し、この危機を乗り越えていきましょう。

これまでの取組と今後の予定

2014 年度

- ・町田市公共施設マネジメントに関する共同研究 (早稲田大学・首都大学東京・町田市)

2015 年度

- ・市民参加型ワークショップ「まちだニューパラダイム研究会 -公共施設の未来をデザインしよう-」開催
- ・「町田市公共施設に関するアンケート調査」実施
- ・「町田市公共施設等総合管理計画(基本計画)」策定

2016 年度

- ・「町田市公共施設再編計画策定検討委員会」発足
- ・「施設利用者アンケート調査(市民センター等)」実施

2017 年度 (予定)

- ・「公共施設再編計画に関する市民説明会」開催
- ・「公共施設再編計画に関するアンケート調査」実施
- ・「町田市公共施設再編計画」策定

施設機能毎の今後の方向性（案）について

再編の考え方に基づいて、施設毎の今後のあり方について方向性や取り組みをまとめました。現在市が所有する公共施設を施設で提供されるサービス機能毎に分類し、整理しています。



庁舎・窓口施設等

〈再編後の将来イメージ〉

- マイナンバー制度の進展やコンビニエンスストアでの証明書発行機能の拡大により、行政窓口へ出向く手間が最小限になり、より簡便かつ身近にサービスを受けられるようになります。
- 行政窓口だけでなく、他のサービスも一度に受けることができる地域拠点機能を強化します。

庁舎・窓口施設等の取り組みの方向性

集約化により建物の総量を圧縮する一方で、維持する建物については、複合化・多機能化や長寿命化により地域拠点としての機能強化を図る。

取り組み

- 施設が担うべき機能やサービス提供のあり方等を検討する。コンビニエンスストアでの証明書発行機能を拡大し、連絡所と市民センターの集約や廃止を含めた配置と機能のあり方を検討する。
- 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。
- 行政サービスや職員数の減少に応じて空いたスペースは、適宜他の用途に転用して有効活用する。

集会施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 複合施設へ機能移転することで、集会機能以外のサービスに触れる機会が生まれ、利便性が高まると同時に、そこでの新たな交流や活動のきっかけが生まれます。
- 活動や交流が活発になることで、一層の地域コミュニティの強化や高齢者等の健康増進が図られます。

集会施設の取り組みの方向性

集約化や複合化・多機能化により建物の総量の圧縮や地域の活動拠点の強化を図るとともに、管理運営手法等の見直しを実施することで、新たな交流や活動の場を維持し、豊かで持続可能な地域社会づくりを進める。

取り組み

- 利用率の低い夜間帯の施設利用のあり方を検討する。
- 集会機能及び集会機能と類似する機能の整理を行い、施設の集約または複合化を図る。
- 施設ごとのサービスのあり方や管理運営手法等を見直す。

図書館

〈再編後の将来イメージ〉

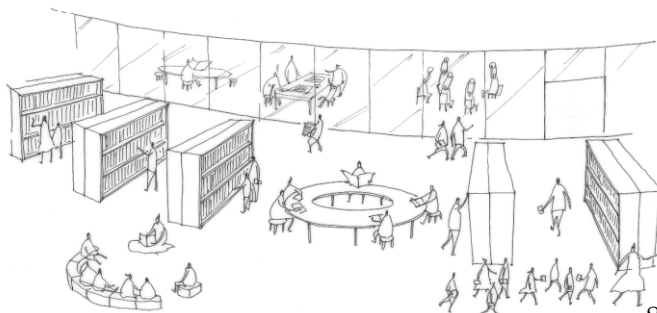
- 図書館機能を学校をはじめとした地域の活動拠点に移転することで、より多くの人々が図書に触れる機会を創出します。
- 地域の活動拠点では他機能と連携し市民等の活力を活かした、図書に関連した新たなサービスが創出されます。

図書館の取り組みの方向性

集約化や複合化・多機能化により建物の総量を圧縮しつつ、地域の活動拠点に機能を移転することで、本に触れ親しむ機会や本を通じた交流の機会を増やす。また、市民等の活力を活かした図書に関連した新たなサービスにより図書に親しむ機会や場の充足を目指す。

取り組み

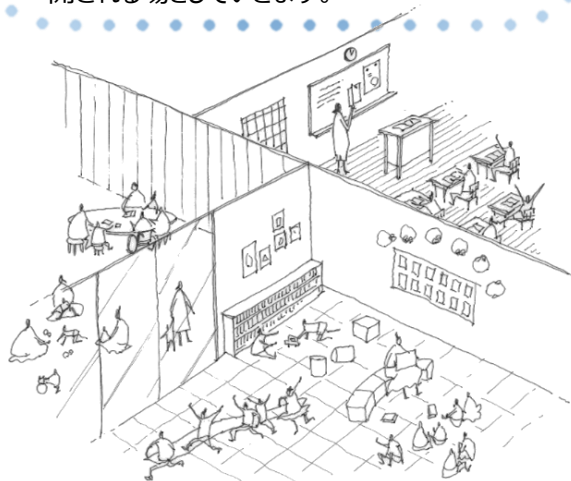
- 配置が近接している図書館の集約を検討する。
- 複合施設でない地域館は周辺学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて、複合化する。
- 効率的・効果的な図書館サービスの提供について検討する。



学校

〈再編後の将来イメージ〉

- 児童・生徒数の減少に併せて適正な学校規模を維持するとともに、地域の拠点となり、多世代で多様な人々の交流や公益的なサービスが展開される場としていきます。



学校の取り組みの方向性

学校施設の適正な維持・管理のため建物の長寿命化や計画的な建替えを実施する。また、児童生徒数の減少に対応した学校の適正規模・適正配置を行うことにより、建物の総量圧縮を図る。さらに、学校施設の有効活用や他機能との複合化・多機能化等により多様な人々が交流し活動する場を創出し、愛着ある地域拠点施設とする。

取り組み

- 建物の大規模改修や建替えを計画的に実施する。
- 段階的に必要な適正規模・適正配置を実施する。
- 教育活動で使用しない教室数の状況や建物の大規模改修・建替えの時期を捉え、周辺の公共施設等の複合化を実施する。
- 教室の未利用時間の積極的な活用を図る。

保育園・児童発達支援センター

〈再編後の将来イメージ〉

- 学校等に複合化し、他機能との連携や多世代の人々との交流が充実することで、保育園等を更に魅力的で利便性の高い地域の子育ての拠点としていきます。

保育園・児童発達支援センターの取り組みの方向性

複合化・多機能化により建物の総量を圧縮しつつ他機能との連携をさらに深めることでより魅力的な場づくりや充実した支援を行う。

取り組み

- 保育園は必要な施設規模に見直し、周辺の学校等の大規模改修や建替えの時期を捉えて、条件が整ったところから複合化する。
- 建物は単独機能での建替えは行わない。
- すみれ教室は、事業内容と連携しやすい他の公共施設と複合化する。

学童保育クラブ

〈再編後の将来イメージ〉

- 学校が地域・民間・公共の活動拠点となることで、そこに複合化する学童保育クラブを、他機能との連携や多世代の人々との交流が充実する、より安全・安心に加えて魅力的で利便性の高い児童の育成の場としていきます。

学童保育クラブの取り組みの方向性

地域の拠点となる学校に複合化・多機能化することで、建物の総量圧縮を図る他、学校施設の活用により多様な活動が可能となり、魅力が向上する。

取り組み

- 保育スペースが不足する学童保育クラブを拡張する際や、学童保育クラブや小学校の大規模改修等の時期を捉えて、校舎内に複合化し、建物は単独機能での建替えは行わない。

ご存じですか？

公共施設におけるサービス改革について～「行政経営改革プラン」～



町田市の基本計画である「まちだ未来づくりプラン」の後期実行計画として2017年2月に「町田市5ヶ年計画17-21」を策定しました。そのなかで、公共施設における行政サービス改革として、市が直営で運用・管理している43の施設を対象として、多様な担い手との協働等によるサービス改革に取り組んでいます。

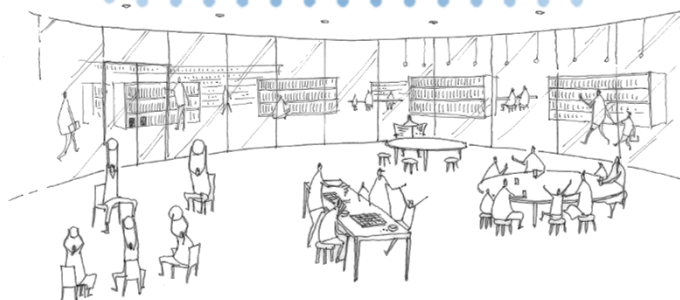
5ヶ年計画は町田市ホームページ（<http://www.city.machida.tokyo.jp>）でもご覧いただけます。

→トップページ> 市政情報> 市の計画> 基本計画・5ヶ年計画> 町田市5ヶ年計画（2017年度から2021年度）

子どもセンター・子どもクラブ

〈再編後の将来イメージ〉

- 学校等が地域・民間・公共の活動拠点となることで、そこに複合化する子どもセンターを他機能との連携や多世代の人々との交流が充実する、更に魅力的で利便性の高い子どもの遊び場や居場所・乳幼児の子育ての場としていきます。



子どもセンター・子どもクラブの取り組みの方向性

複合化・多機能化や市有財産等の活用により建物の総量を圧縮する一方、他機能との連携をさらに深めることで、子どもの地域への愛着を育む健全育成と乳幼児の子育て支援の場の維持や魅力の向上を図る。

取り組み

- 子どもセンター・子どもクラブの役割を明確化しながら、子どもを中心とした様々な交流と協働による魅力的な体験活動を展開できるようなサービスのあり方を検討する。
- 子どもセンターは中長期的には周辺の公共施設の更新時期を捉えて複合化し、単独での建物の建替えは行わない。その際、児童が自由に来館し、遊べる環境の確保、セキュリティへの配慮、乳幼児の保護者も利用しやすいようなつくり方に留意する。
- 子どもクラブの増設は新たな建物を建てる方法だけではなく、他の公共施設の転用や既存スペースを有効活用することを検討する。また、今後の年少人口の減少を踏まえて、整備費用やその後の維持管理費用が少ない手法や建物の可変性等の工夫を検討する。

高齢者福祉施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 専用（固定）の施設によるサービス提供から、建物とサービスを切り離し、ソフト化を図ることで、より多くの場所でサービスを展開し、より身近な場所でサービスを受けられる機会を増やします。
- 高齢者の居場所づくりについても「高齢者」に限定した居場所ではなく、高齢者を含めた多様な世代・目的の方が集える場へ転換することで、人と人との交流やつながりを促します。

高齢者福祉施設の取り組みの方向性

地域の活動拠点となる施設へ機能を移転することで、建物の総量圧縮を図るとともに、身近な場所でより多くの人がサービスを受けられる機会を増やす。

取り組み

- 高齢者の居場所づくりの地域展開や健康づくり等各種講座について、市民センターや学校等の地域の活動拠点での実施を図る。
- 高齢者専用施設は建物の建替えは行わない。

障がい福祉施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 公共や民間の施設に関わらず、様々な場面で適切な支援を受けながら、誰もが社会の一員として、ともに育ち、働き、暮らしていくことができます。

障がい福祉施設の取り組みの方向性

市有財産の活用のほか、民間によるサービス提供の活用や民間への移行等により建物の総量圧縮を図りつつ、公共の福祉施設に限らず障がいのある人となない人がともに育ち、働き、暮らすことができる場を維持していく。

取り組み

- 施設の譲渡を含め、民間活力の活用策を検討する。また、民間の運営する施設への代替性がある施設については廃止する。

保健施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 健康福祉会館と保健所中町庁舎の施設集約化により、保健所機能の集中化が図られ、ワンストップサービスによる利便性を高めます。
- 施設の集約により、初期救急提供体制の検討等、医療と保健の連携強化が図られます。

保健施設の取り組みの方向性

集約化や市有財産等の効果的な活用により建物の総量圧縮や施設利便性の向上を図る。

取り組み

- 診療所の区画外を、診療所の事業に支障のない範囲で有効活用する。
- 建物の建替え時期を捉えて、健康福祉会館と保健所中町庁舎を集約化する。
- 施設の新たな有効活用による、健診事業等の地域での実施拡大を検討する。

生涯学習施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 生涯学習センターを生涯学習拠点に据えながら、地域への事業展開により、これまで以上に身近な場所で生涯学習に触れることができます。
- 生涯学習センターの建物をこれまで以上に多機能に活用し、中心市街地の活動拠点となります。



生涯学習施設の取り組みの方向性

施設の複合化・多機能化を図ることや特定用途に限定された施設の廃止により建物の総量を圧縮する一方、既存施設の活用をはじめとした地域での事業展開により、身近な場所で生涯学習に触れられるようになる他、市民が学習を通して得た知識や技能を地域で活かすことで、地域の活力が生まれる。

取り組み

- 地域での事業展開を強化し実施する。
- 生涯学習センターは生涯学習機能だけではなく、中心市街地における集会機能としての役割も大きいことから、学習活動に限定しない施設として再編を検討する。

文化ホール施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 施設運営に民間ノウハウを効果的に取り入れることで、より経営的な観点で管理運営できると同時に、これまで以上に魅力的な付加サービスを提供します。
- 公共施設に限らず文化芸術に関連した他の施設とのネットワークを形成し、地域との連携強化や町田発の文化芸術の育成を図ります。

文化ホール施設の取り組みの方向性

集約化により建物の総量を圧縮する一方で、建物の長寿命化や民間ノウハウを効果的に取り入れ、施設の一層の有効活用等により、文化芸術に関する活動の場の維持や活性化を図り市の魅力を向上させる。

取り組み

- 民間ノウハウを活かした管理運営により、収益性の向上を図る。
- 会議室などの利用率の低い機能は、転用等を含めた見直しを行う。
- 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。

美術館・博物館施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 町田市の文化や歴史を伝える資料の集約により、より魅力的な展示をすることができ、多くの人が文化や歴史に触れる機会を提供することで、市民の市への愛着の醸成、教育、生涯学習などに寄与していきます。
- アウトリーチ展示によって、特定の施設だけではない場所で文化や歴史に触れる機会が増えます。
- 国際版画美術館及び（仮称）国際工芸美術館は、公園の空間や賑わいと一体となった文化・芸術活動の拠点となっており、魅力的な展示やイベントを開催することで市内外から多くの人が集まります。

美術館・博物館施設の取り組みの方向性

集約化や複合化・多機能化により建物の総量圧縮や施設の魅力の向上を図る。また、アウトリーチ展示等により文化や芸術等に触れる機会を増やす。

取り組み

- 町田市の文化や歴史を伝える資料は、収蔵品を整理しつつ、収蔵庫については既存施設を活用して集約化を図り維持管理コストを削減する。また、展示スペースの集約化を検討するとともに展示機能の魅力向上を図る。展示については施設間協力など進め、アウトリーチ展示も検討する。
- 国際版画美術館及び（仮称）国際工芸美術館は、他施設からのアウトリーチによる展示などの受け皿として活用を検討する。

スポーツ施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 地域の活動拠点となる学校でのスポーツ活動が盛んになることで、より多くの人々がスポーツに触れる機会を提供します。
- 施設運営に民間ノウハウを効果的に取り入れることで、より経営的な観点で管理運営できると同時に、これまで以上に魅力的な付加サービスを実現します。

スポーツ施設の取り組みの方向性

集約化や市有財産等の活用により建物の総量を圧縮しつつスポーツ活動の場や機会を確保し、民間ノウハウを効果的に取り入れることでさらなる魅力向上や運営の効率化を図る。

取り組み

- ・ 建物の長寿命化に向けた大規模改修等を計画的に実施する。
- ・ 利用料金の見直しや、民間ノウハウを活かした管理運営等により、収益性を向上させる。
- ・ 学校等の既存施設や遊休地の効果的な活用を図る。

その他の施設について

施設名	再編の取り組みの方向性
防災施設	災害から市民の生命を守るための施設として、適切に維持していくために長寿命化する。既存施設を有効に活用することで不足する防災施設を充足する。
その他集会施設	地域の自主的な維持管理に移行することで、町内会・自治会が所有する集会施設と同様に、効果的・効率的な運営を目指す。
その他教育施設	市有財産として積極的な活用を図ることで、新たなサービス機能を提供する場や収入源とする。
その他高齢者福祉施設	民間によるサービス提供への移行や、複合化・多機能化、市有財産の活用等で建物の総量圧縮を図る。
その他展示施設	文化財は適切に維持保全していく一方、その他の展示施設は市有財産の活用により建物の総量を圧縮する。
市営住宅	適正かつ効率的な維持管理を行い、建物の大規模改修や建替えの際は、社会状況に合わせた更新をする。
医療施設	市民の生命を守るための施設として、効率的かつ適切に維持していく。
レクリエーション・観光施設	事業の見直しや複合化・多機能化等により建物総量の圧縮を図る一方、民間や市民等の活力によりさらなる魅力向上や運営の効率化を図る。
産業系施設	事業の見直し、複合化・多機能化、さらなる民間活力の導入により施設総量の圧縮を図る他、さらなる収益の増加や運営の効率化を図るとともに賑わいや交流を創出する。
供給処理施設 (ごみ処理施設等)	生活に必要な施設として、効率的かつ適切に維持していく。
下水道施設	人々の暮らしや衛生環境の確保に直結する施設として、効率的かつ適切に維持していく。
駐車場・自転車等駐車場	さらなる民間活力の導入により効率的かつ需要に見合ったサービス提供を行う。施設更新の際は、土地の貸し付け、整備、長期の維持管理まで含めた民間活用を検討する。

みんなの力を合わせて、

将来を見据え、次の世代にも引き継げる

公共施設・公共空間の より良いかたち を実現しましょう！

公共施設マネジメントに関する取り組みは町田市ホームページ（<http://www.city.machida.tokyo.jp>）でもご覧いただけます。 → トップページ＞ 市政情報＞ 行政経営に関する委員会と計画＞ 公共施設マネジメントに関する取り組み